

おいしさ、けんこう、
つぎつぎ、わくわく。))



2020年3月期
本決算補足説明資料
(2019年4月1日～2020年3月31日)

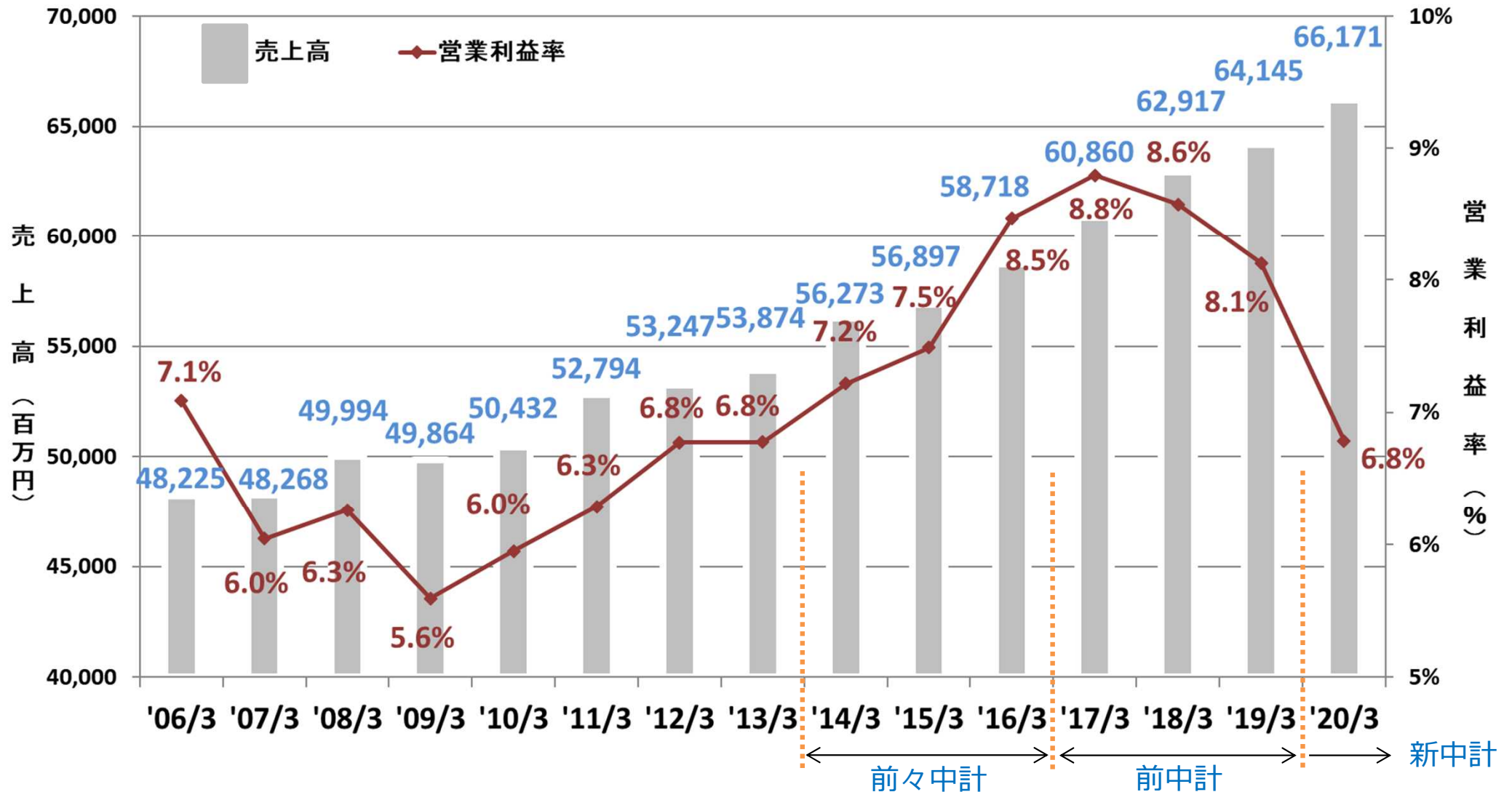
2020年5月28日

フジッコ株式会社 (2908)

<https://www.fujicco.co.jp/>

2019年度決算の概要

新中計スタート、初年度は増収減益



連結損益計算書（前期比）

	2019/3期		2020/3期		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	64,145	100.0	66,171	100.0	2,026
売上原価	38,037	59.3	39,691	60.0	1,653
売上総利益	26,107	40.7	26,480	40.0	372
販売費及び一般管理費	20,893	32.6	21,991	33.2	1,097
営業利益	5,214	8.1	4,489	6.8	△725
営業外損益	332	0.5	349	0.5	17
経常利益	5,546	8.6	4,838	7.3	△707
特別損益	726	1.1	△16	△0.0	△743
税引前利益	6,273	9.8	4,821	7.3	△1,451
当期純利益	4,189	6.5	3,100	4.7	△1,088
1株当たり純利益 [潜在株式調整後]	140円02銭 [139円89銭]		103円58銭 [103円53銭]		△36円44銭 [△36円36銭]

※ 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

売上高は増収キープ . . . 過去最高 営業利益、経常利益、当期純利益いずれも減益

- ◎ 売上高は2,026百万円の増収（うちフーズパレット1,512百万円）
- ◎ 売上原価率は60.0%、前期より0.7ポイントの悪化
- ◎ 販管費率は33.2%、前期より0.6ポイントの悪化
- ◎ その結果、営業利益は725百万円の減益、
営業利益率は6.8%と前期より1.3ポイントの悪化
- ◎ 経常利益は707百万円の減益
- ◎ 当期純利益は1,088百万円の減益
減損損失780百万円を特別損失として計上
- ◎ 1株当り当期純利益は103円58銭、前期より36円44銭の減少
潜在株式調整後1株当り当期純利益は103円53銭

四半期会計期間の売上・営業利益の増減推移（前期比）

(単位：百万円)		売上	営業利益	営業利益率
第1 Q (4 - 6月)	前第1 Q	15,340	1,048	6.8%
	実績	15,563	936	6.0%
	増減	+223	△111	—
	前同四半期比	101.5%	89.3%	—
第2 Q (7 - 9月)	前第2 Q	15,724	1,274	8.1%
	実績	16,243	1,036	6.4%
	増減	+519	△237	—
	前同四半期比	103.3%	81.3%	—
第3 Q (10 - 12月)	前第3 Q	18,177	1,935	10.6%
	実績	18,670	1,669	8.9%
	増減	+493	△266	—
	前同四半期比	102.7%	86.2%	—
第4 Q (1 - 3月)	前第4 Q	14,903	956	6.4%
	実績	15,693	847	5.4%
	増減	+790	△109	—
	前同四半期比	105.3%	88.6%	—

連結製品分類別売上高

(百万円)	前期 実績	構成比 %	当期 実績	構成比 %	前期差	前期比 %
惣 菜 製 品	20,989	32.7	22,684	34.3	1,695	108.1
昆 布 製 品	17,746	27.7	18,060	27.3	314	101.8
豆 製 品	13,980	21.8	13,767	20.8	△213	98.5
ヨーグルト製品	6,803	10.6	6,907	10.4	103	101.5
デザート製品	3,256	5.1	3,165	4.8	△90	97.2
そ の 他 製 品	1,370	2.1	1,586	2.4	216	115.8
合 計	64,145	100.0	66,171	100.0	2,026	<u>103.2</u>

◎プラス品群（前期との比較）

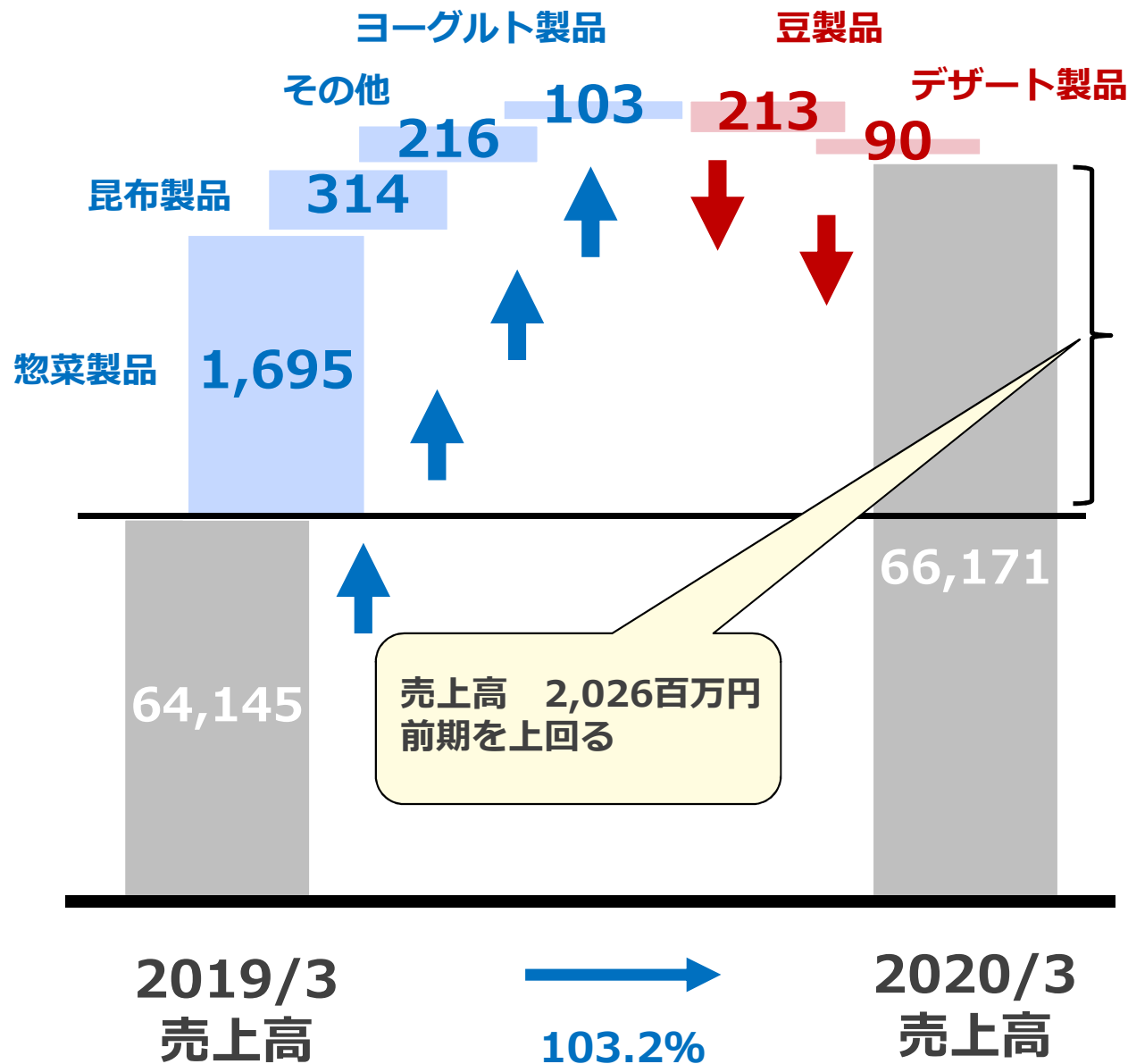
フーズパレット + 1,512百万円
佃煮 + 328百万円
カスピ量販 + 248百万円
通販商品 + 233百万円

×マイナス品群（前期との比較）

煮豆 △438百万円

売上高の増減要因分析（前期比）

単位：百万円



【総括】

豆製品、デザート製品が前期より下回ったが、惣菜製品、昆布製品、ヨーグルト製品が前期より上回ったことから、全体では前期より2,026百万円上回った

【増加要因に対するコメント】

惣菜製品では包装惣菜「おぼんざい小鉢」の伸長、フーズパレット社の中華惣菜が加わる

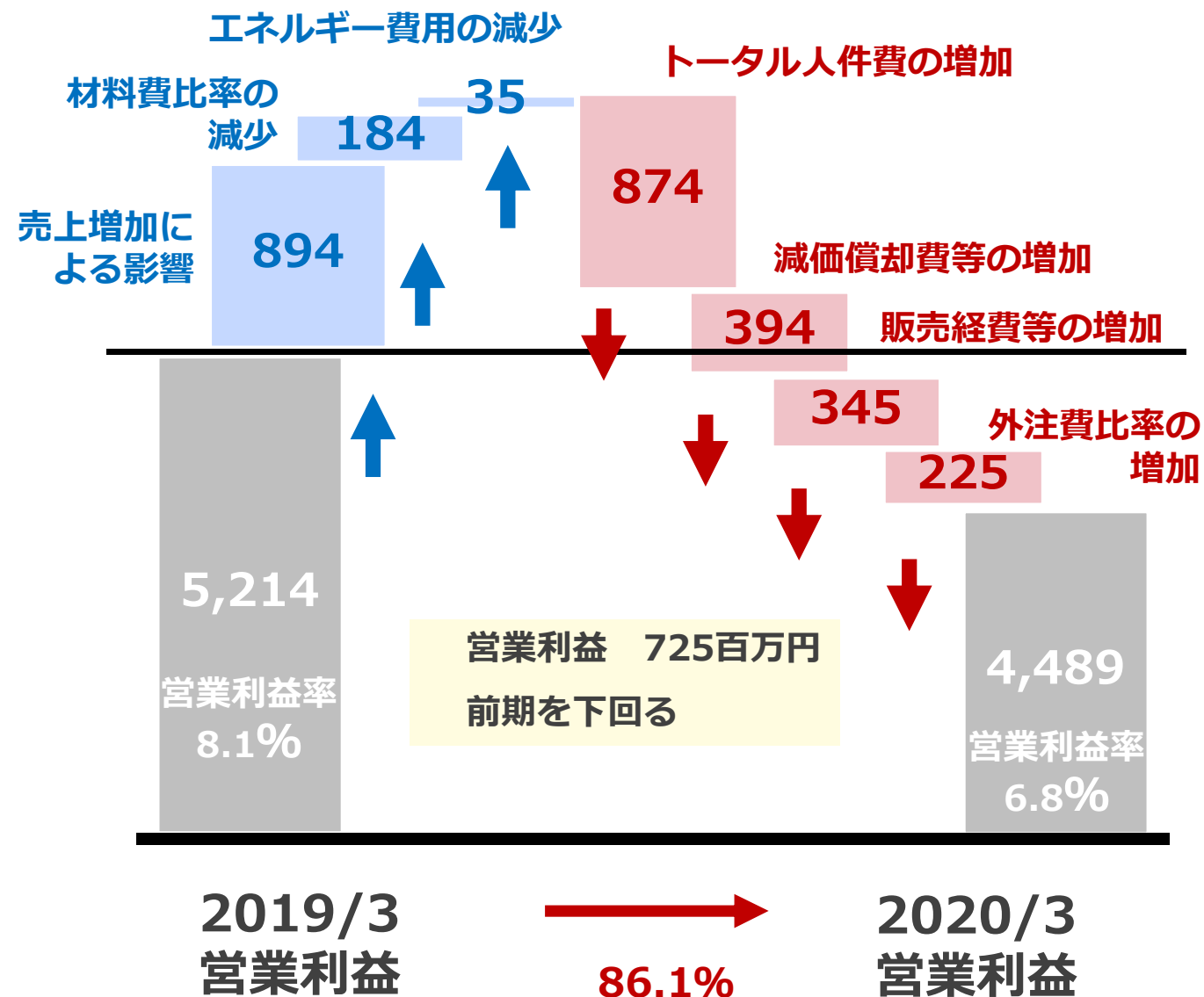
昆布製品では佃煮、ヨーグルト製品では量販チャネル「カスピ海ヨーグルト」、その他製品では通販商品「クロクロ」が伸長

【減少要因に対するコメント】

豆製品は、煮豆の減少分を蒸し豆の伸長で補うことができず

営業利益の増減要因分析（前期比）

単位：百万円



【総括】

営業利益の減少は、売上原価率、販管費率ともに上昇したことによる
人件費をはじめ、荷造運賃、外注費、減価償却費等も軒並み増加となった

【増加要因に対するコメント】

- ・ 材料費比率の減少は惣菜製品の原材料の単価改善等による

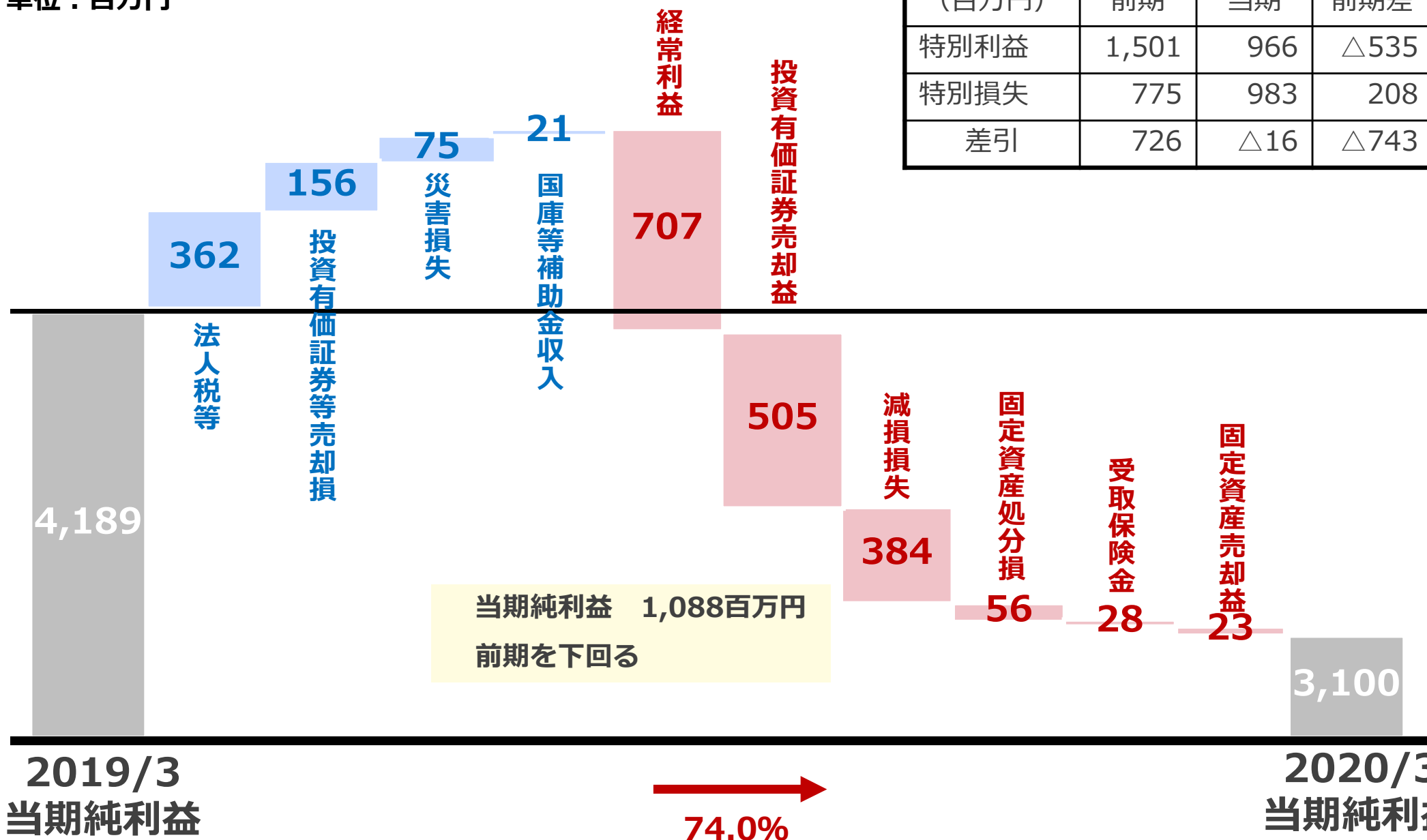
【減少要因に対するコメント】

- ・ 人件費の増加（フーズパレット）
- ・ 物流費、販売手数料の増加
- ・ 外注費比率の増加
- ・ 減価償却費の増加

当期純利益の増減要因分析 ～ 特別損益の前期比較 ～

単位：百万円

(百万円)	前期	当期	前期差
特別利益	1,501	966	△535
特別損失	775	983	208
差引	726	△16	△743



よかった点

- ◎ フーズパレット社の完全子会社化（2019年8月1日～）
- ◎ 「おばんざい小鉢」の成長が継続
- ◎ 新規事業スタート
大豆ヨーグルト

悪かった点

- ◎ 営業利益、経常利益、当期純利益いずれも減益
- ◎ 既存事業の売上成長の鈍化
- ◎ 売上原価率、販管費率ともに前年より悪化
- ◎ 減損損失の計上

2020年度業績の見通し

おいしさ、けんこう、
つぎつぎ、わくわく。))



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

地球健康

地球へ

SDGs・環境

健康社会

社会(国・地域)へ

地域交流

健康提供

お客様へ

美味しさ追求

健康経営

従業員へ

働き方改革

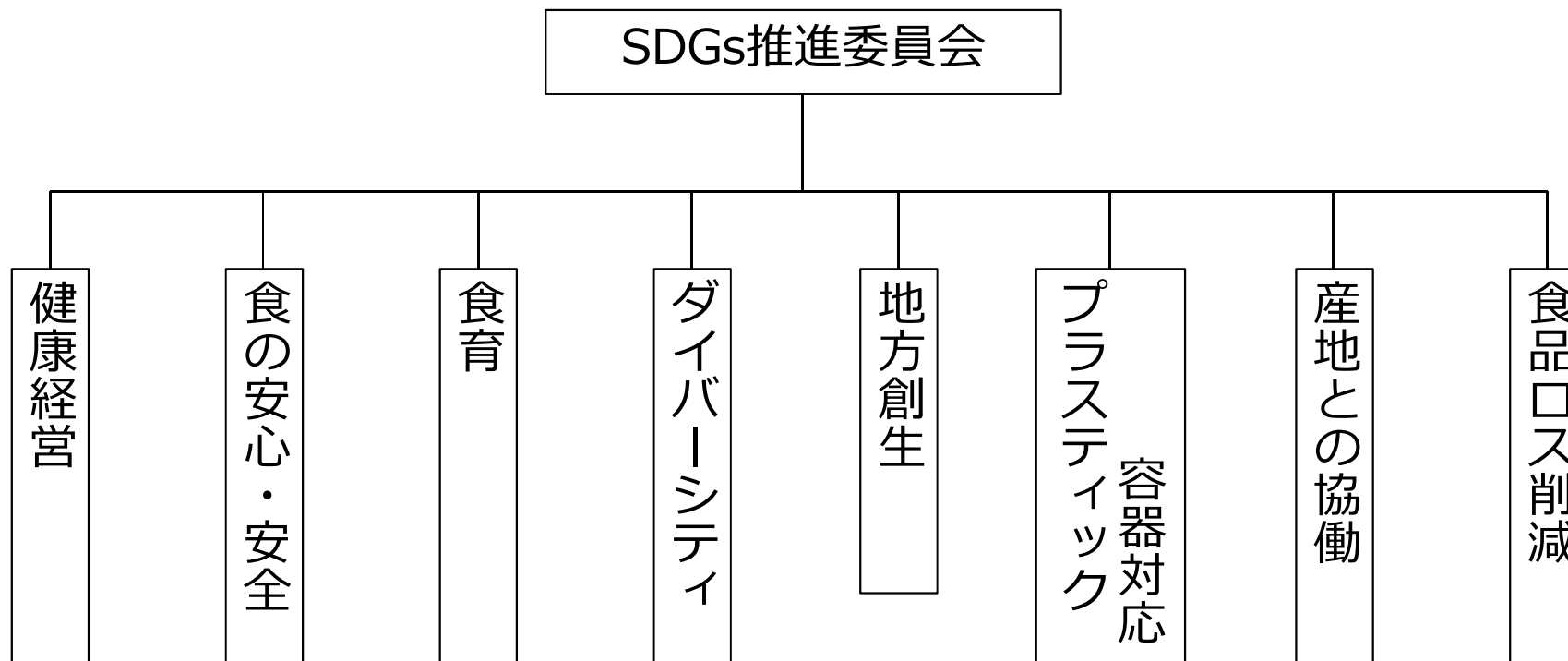
健全経営

会社・株主へ

生産性向上

フジッコ流SDGsの推進 「5つの健康」実現に向けて

【推進テーマ】



【対応SDGs】



選択と集中

開発力の発揮で

未来づくりに挑戦しよう

フジッコ流サステナブル経営（理念経営の定義）

お客様第一主義の下、企業理念にふさわしい技術・開発とサービスの提供を通じて、社会的課題の解決に貢献し、お客様の信頼を勝ち取り続けること

成長戦略

開発力

“わくわく”の創出

売上成長率

PPM61

成長の芽

リブランディング

新規事業（販路）

構造改革

収益力

稼ぐチカラ

ROE

FCR61

粗利率（KPI）

全員参加型共通課題

SKUコントロール

保有資産・事業の縮減

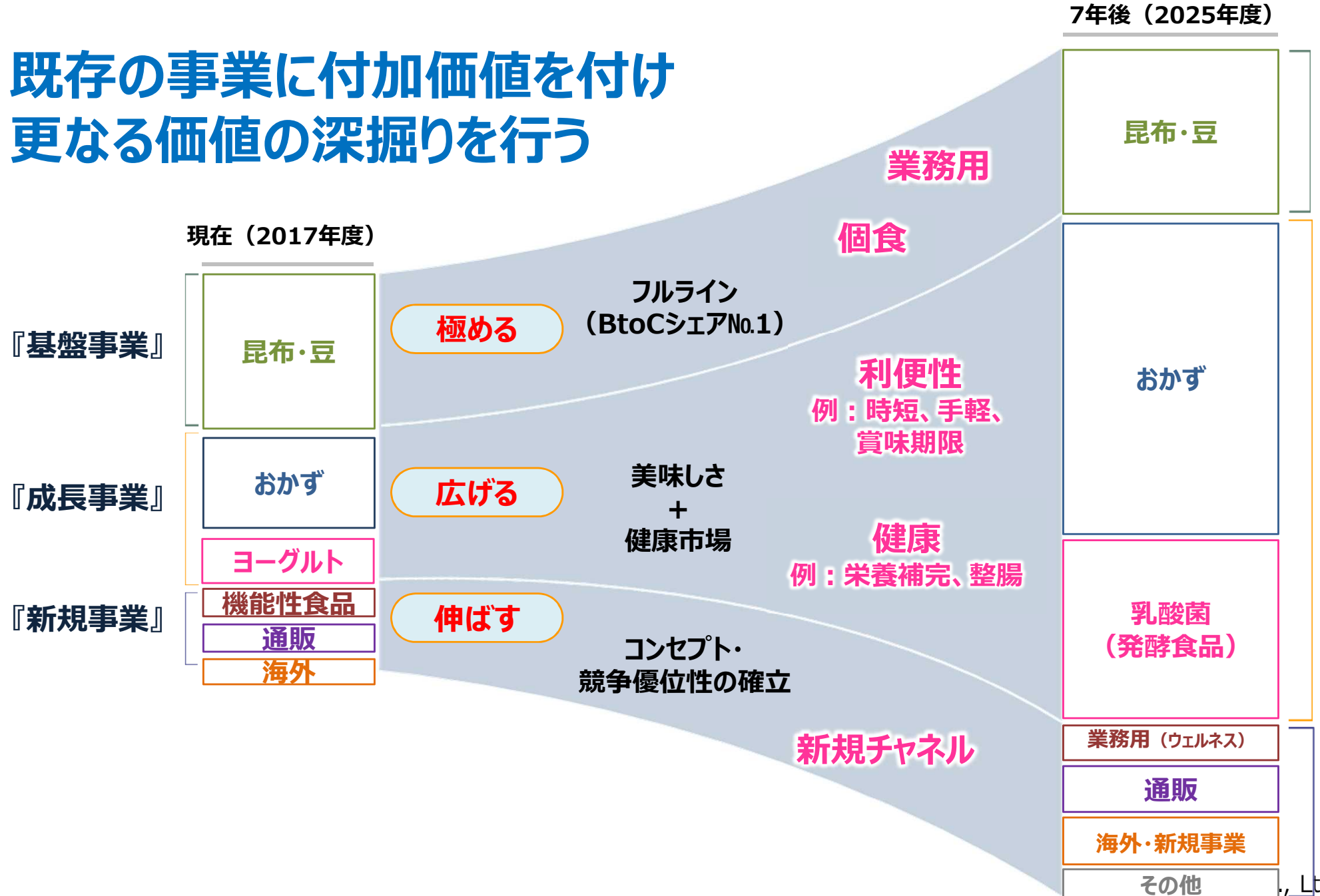
「儲け方」
の再考

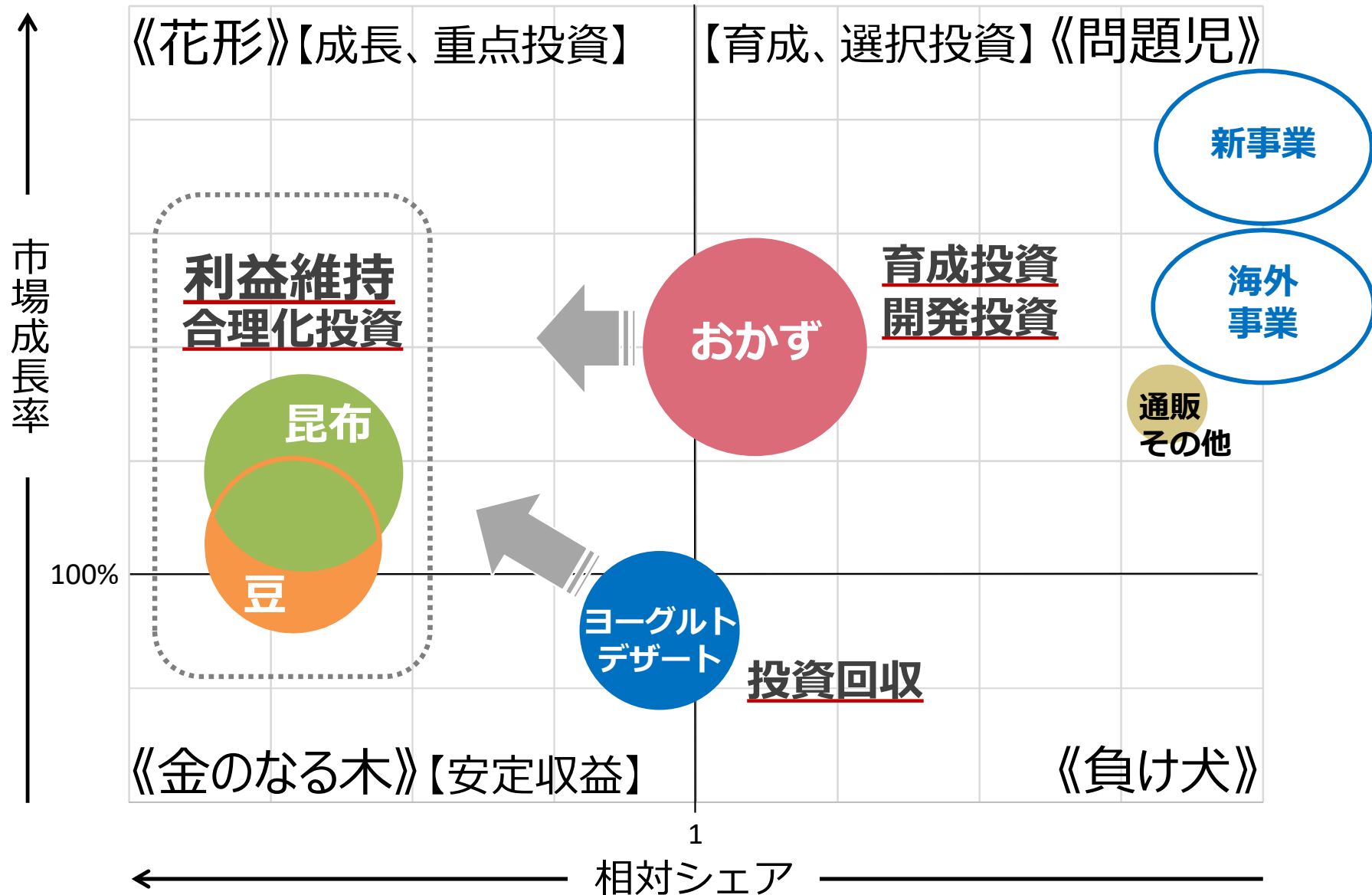
新「稼ぐ力」
の創出

社会的課題の解決

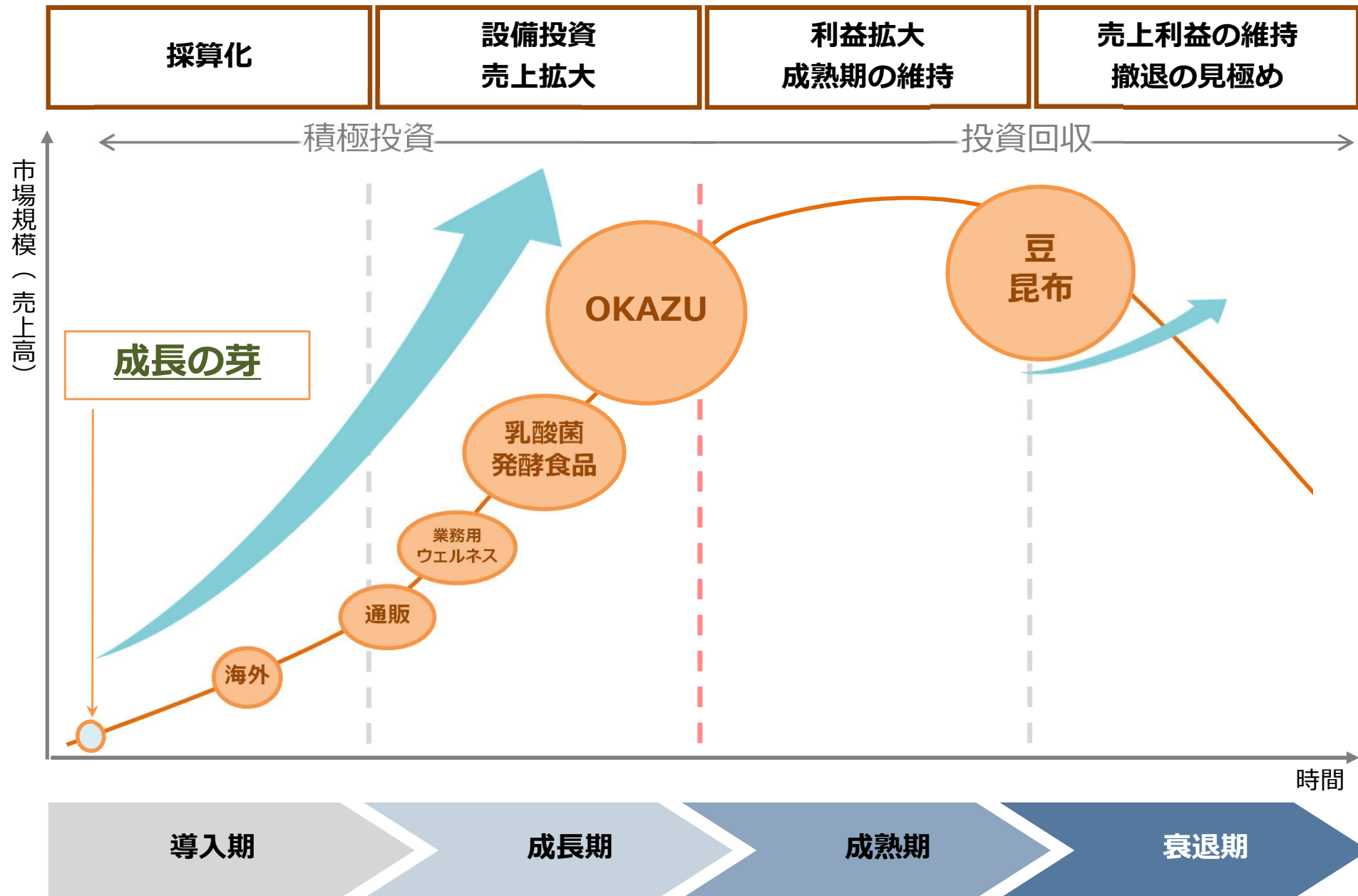
ESGの推進と利益確保の同時実現

既存の事業に付加価値を付け 更なる価値の深掘りを行う





PPM61 ～ 事業別ポジション ～



待望の大型新商品 「大豆で作ったヨーグルト」 2020年3月 好評発売中



おいしく
やさしく
きれいに
生きよう。



大豆が
ヨーグルトに
こいをした。

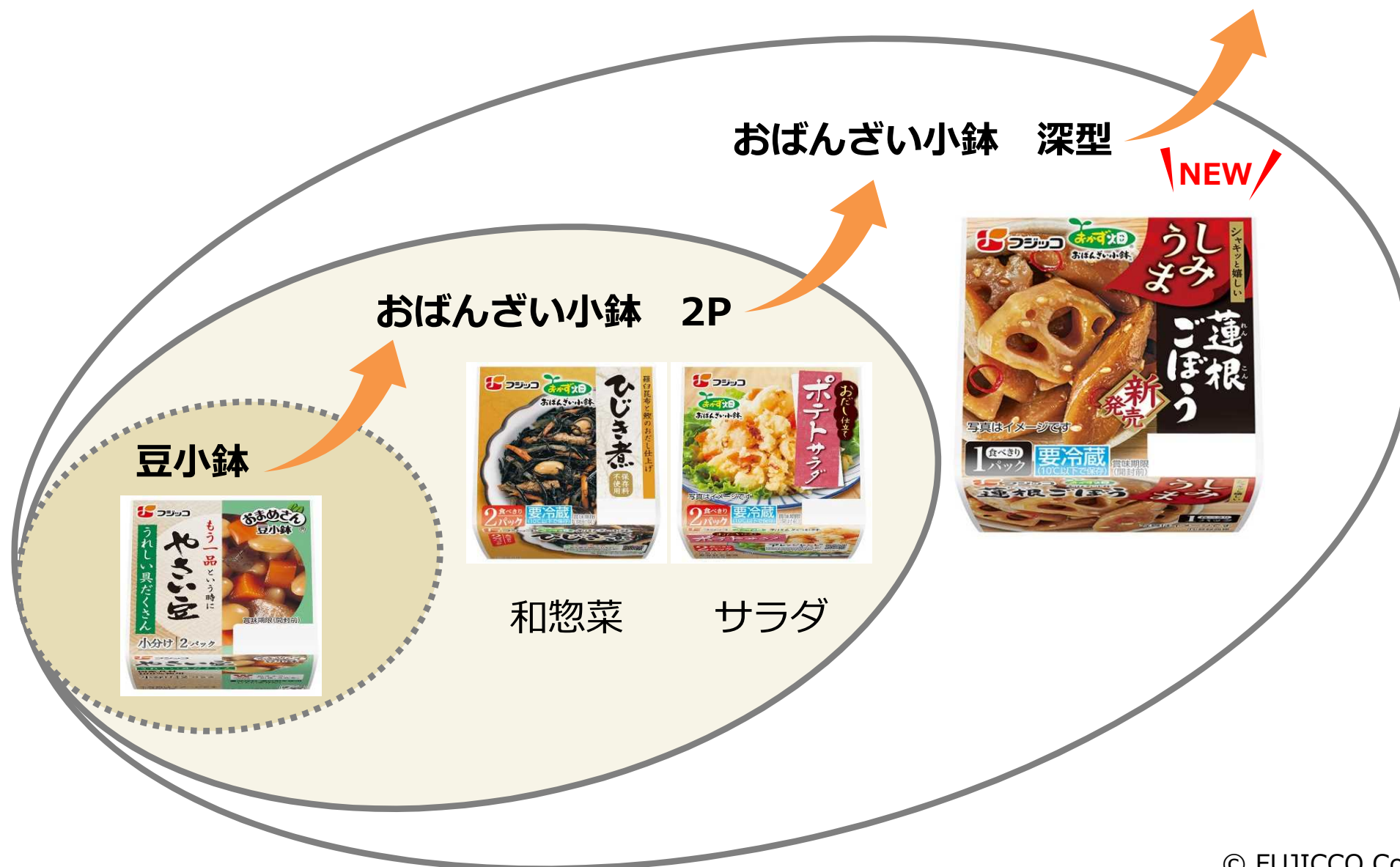


とろ〜りまろやか
大豆が濃い

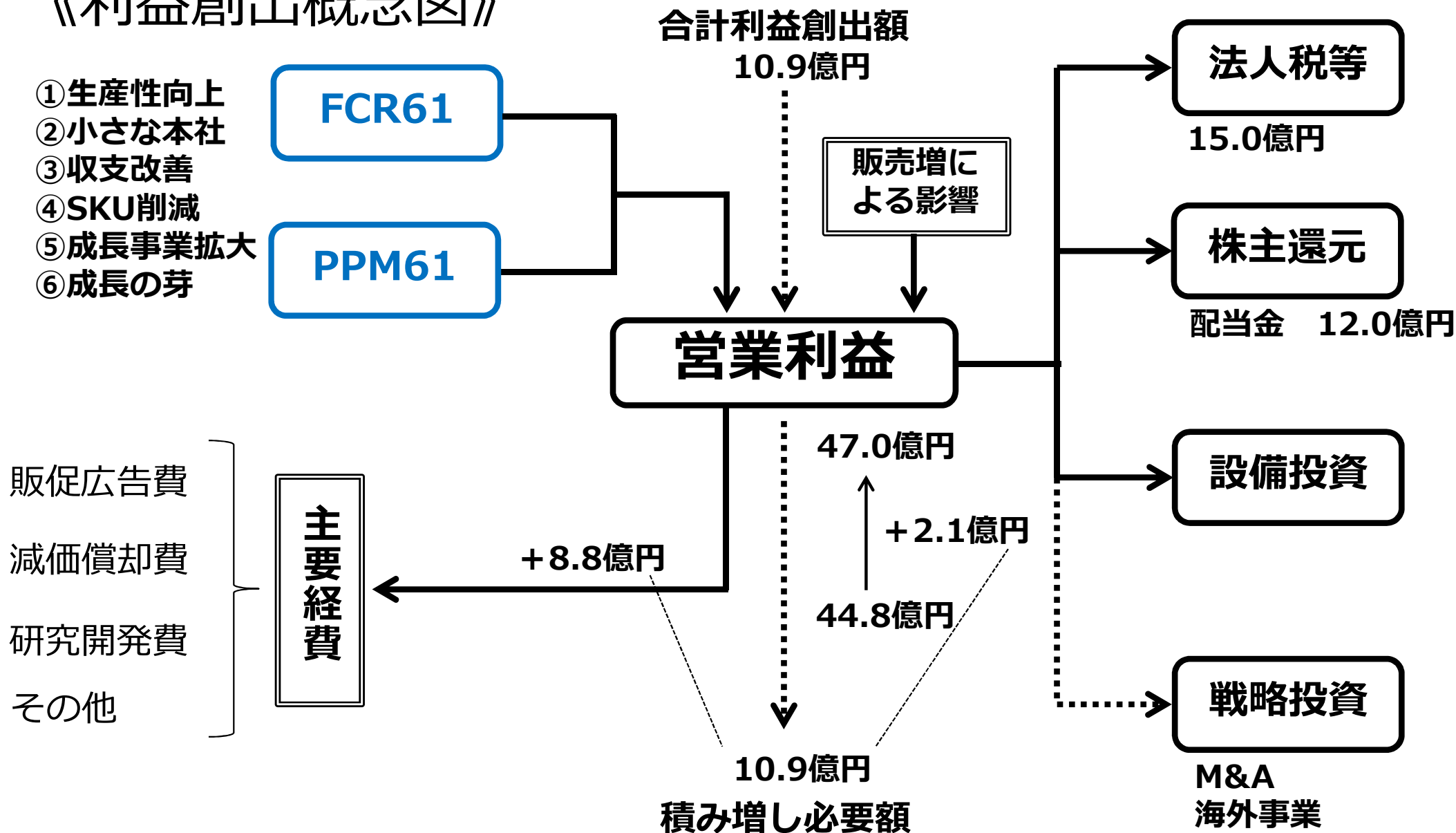


大豆で作った
ヨーグルト

進化する個食・食べきり惣菜



《利益創出概念図》



連結製品分類別売上高

(単位：百万円)	2020/3 実績	構成比 %	2021/3 予想	構成比 %	前期差	設定率
惣 菜 製 品	22,684	34.3	24,088	36.0	1,403	106.2%
昆 布 製 品	18,060	27.3	17,758	26.5	△301	98.3%
豆 製 品	13,767	20.8	13,270	19.8	△496	96.4%
ヨーグルト製品	6,907	10.4	7,377	11.0	470	106.8%
デザート製品	3,165	4.8	3,056	4.6	△109	96.6%
そ の 他 製 品	1,586	2.4	1,448	2.2	△138	91.3%
合 計	66,171	100.0	67,000	100.0	828	101.3%

取り組み方針

- 惣菜製品 : 「おばんざい小鉢」の販売拡大、日配惣菜・中華惣菜の収益性向上
- 昆布製品 : 次世代新商品の開発
- 豆製品 : 関東工場新棟の成功（生産合理化）
- ヨーグルト製品 : 「大豆で作ったヨーグルト」の育成
- デザート製品 : 期間限定商品の投入

連結業績予想

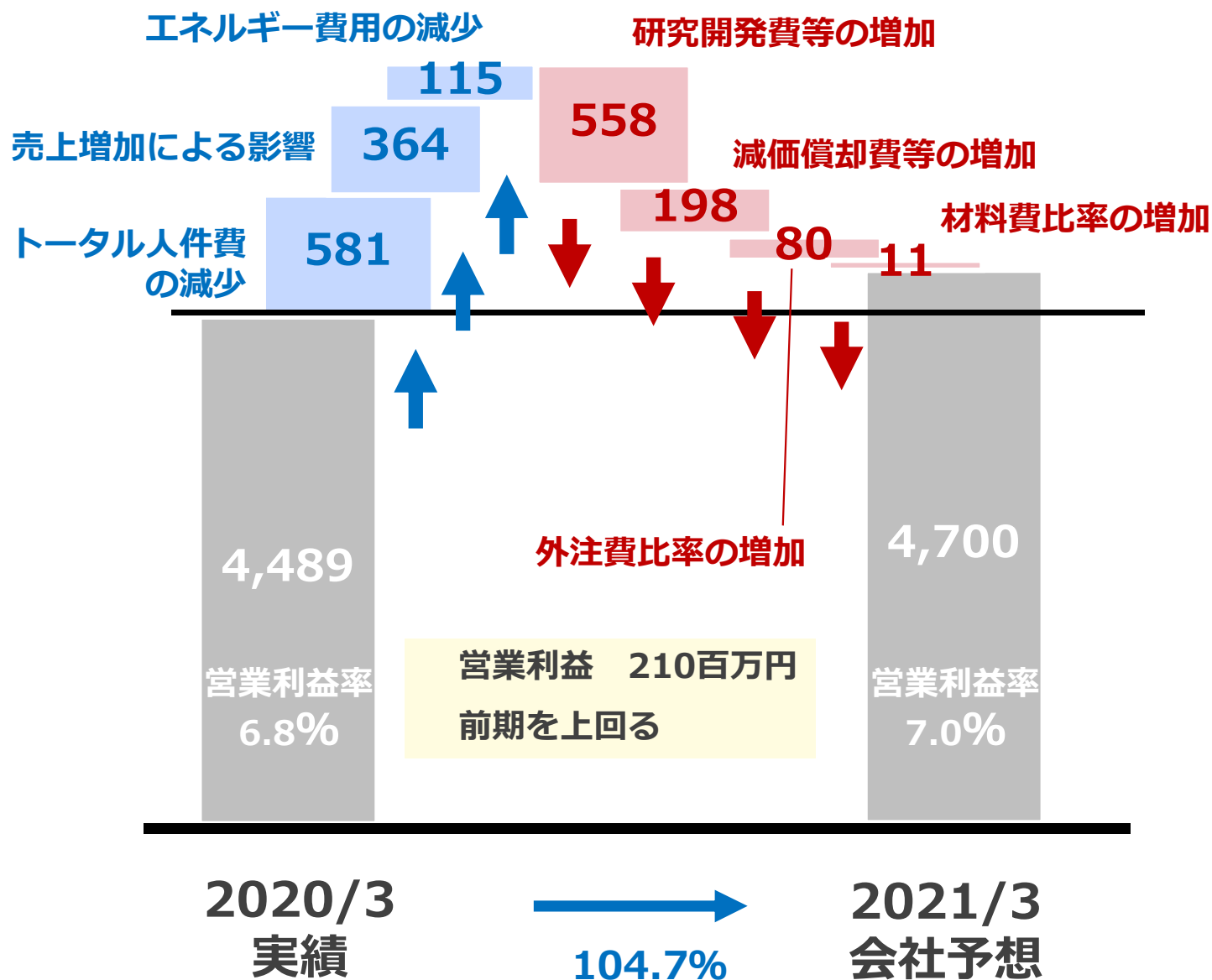
	2020/3期		2021/3期予想		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	66,171	100.0	67,000	100.0	828
売上原価	39,691	60.0	39,555	59.0	△136
売上総利益	26,480	40.0	27,445	41.0	964
販売費及び一般管理費	21,991	33.2	22,745	33.9	753
営業利益	4,489	6.8	4,700	7.0	210
営業外損益	349	0.5	300	0.4	△49
経常利益	4,838	7.3	5,000	7.5	161
特別損益	△16	△0.0	—	—	16
税引前利益	4,821	7.3	5,000	7.5	178
当期純利益*	3,100	4.7	3,500	5.2	399
1株当り当期純利益	103円58銭		116円86銭		13円28銭

1株当り配当金	40円** (中間19円)	40円 (中間20円)	±0
---------	---------------	-------------	----

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。 ** 年間配当金40円のうち、期末配当金21円は予想。 © FUJICCO Co., Ltd. 24

営業利益の増減要因分析

単位：百万円



【ポイント】

① 予想どおりの増収

② FCR-1の推進

- ・生産性の向上
- ・固定費の削減

③ 販管費率の改善

- ・販売経費の総枠管理
- ・トータル物流費の低減

設備投資額の推移

(百万円)	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3 計画
設備投資額	2,278	3,513	7,268	3,638	5,656	12,500

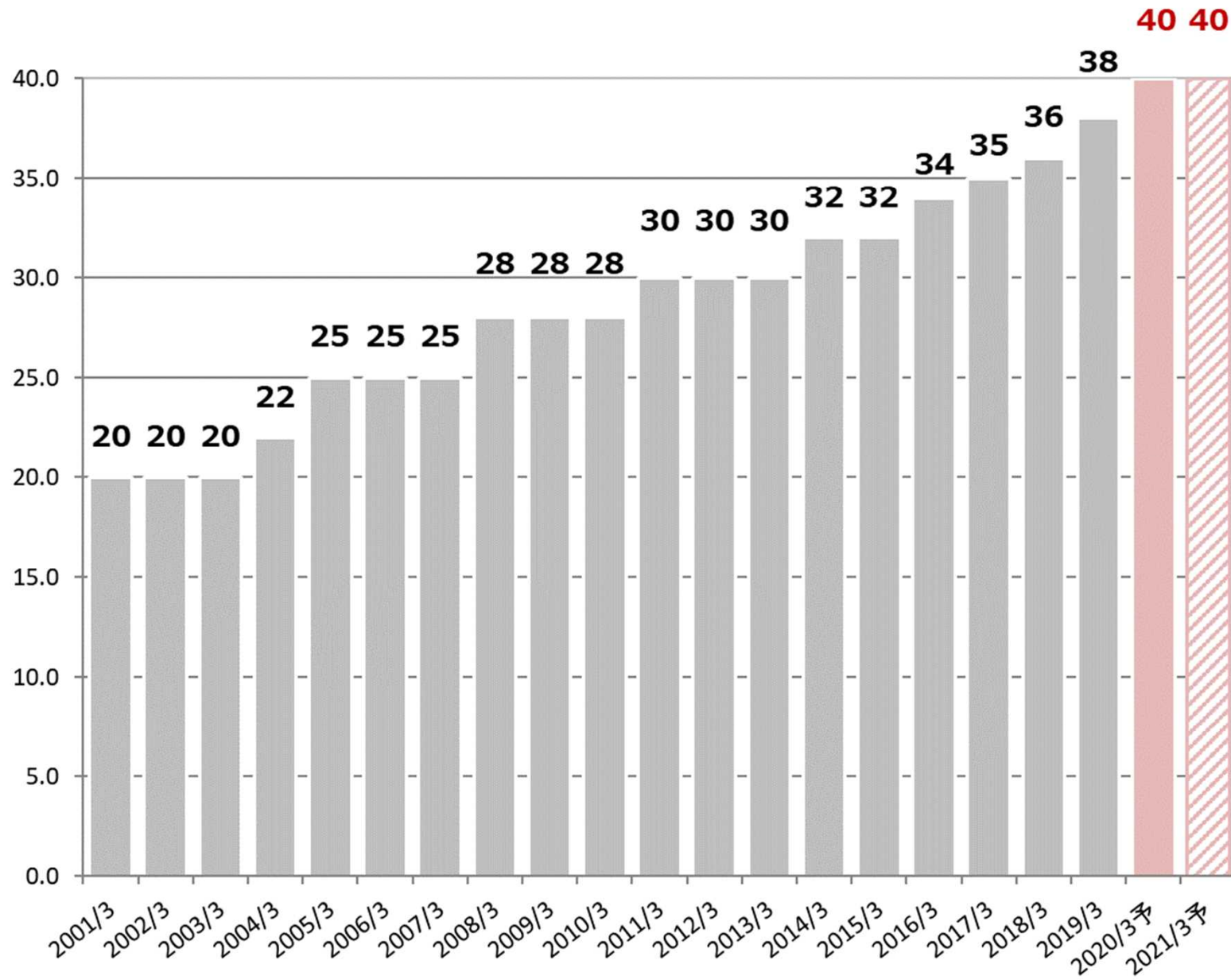
2021/3期 設備投資計画

単位：百万円

投資区分	計画金額
成長投資	8,800
合理化投資	1,200
更新投資	2,500
合計	12,500

安定配当を継続

一株当たり年間配当金(円)



1. SKU削減の取り組み
2. 豆と昆布の収益性改善
3. 新規事業の育成 . . . 大豆ヨーグルト
4. “ポスト・コロナ”の事業戦略見直し

この資料には、当社の現在の業績見通しなどが含まれております。それら将来の予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの予想などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

～ お問い合わせ先 ～

経営企画部 酒巻・尾西まで

T E L 078-303-5921

F A X 078-303-5949